なか議会だより

2026
11.4
Vol.91





令和７年度
「決算」





TOPICS

特集
令和7年度決算

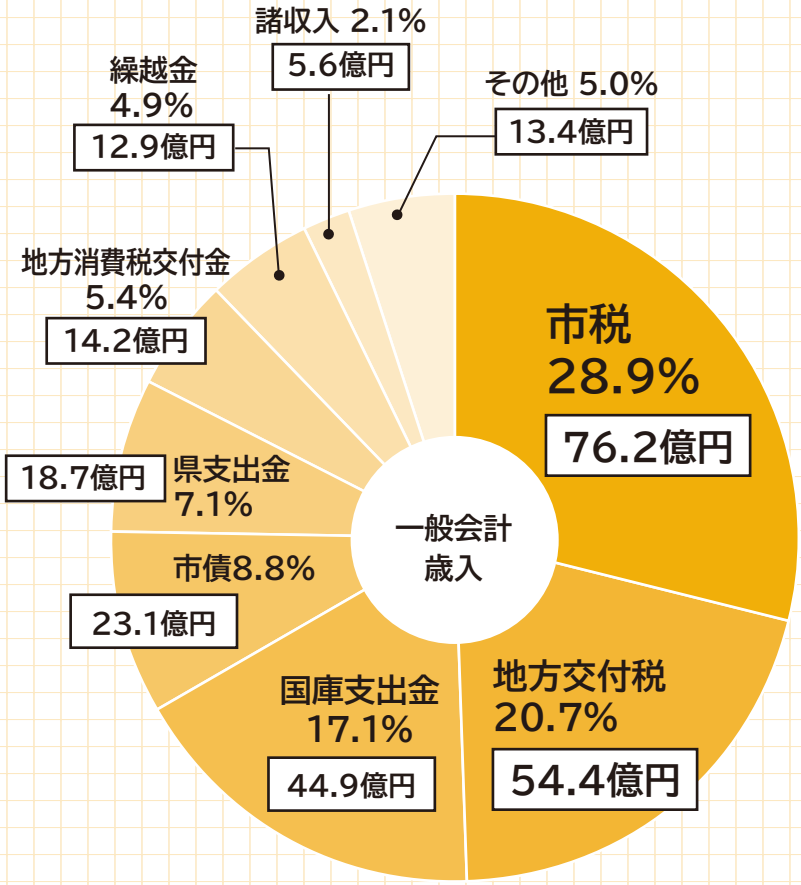
こんなことが決まりました
議案などの審議結果

一般質問

議会活動レポート

那珂市議会広報委員会

みんなのお金の使い道



令和8年第3回定例会では、市長から令和7年度の決算が提出されました。

令和7年度は、菅谷市毛線街路整備事業や、情報系システム管理事業、複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業などが増額となりました。

一般会計総額は、歳入歳出ともに前年度と比べて増加となり、歳入歳出差引額から翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支は、6億8170万円の黒字決算となりました。

決算の審議は、9月15日、16日、17日の3日間にわたり、各常任委員会で行いました。その結果、令和7年度の決算を全て認定しました。

1年間に入ってきたお金

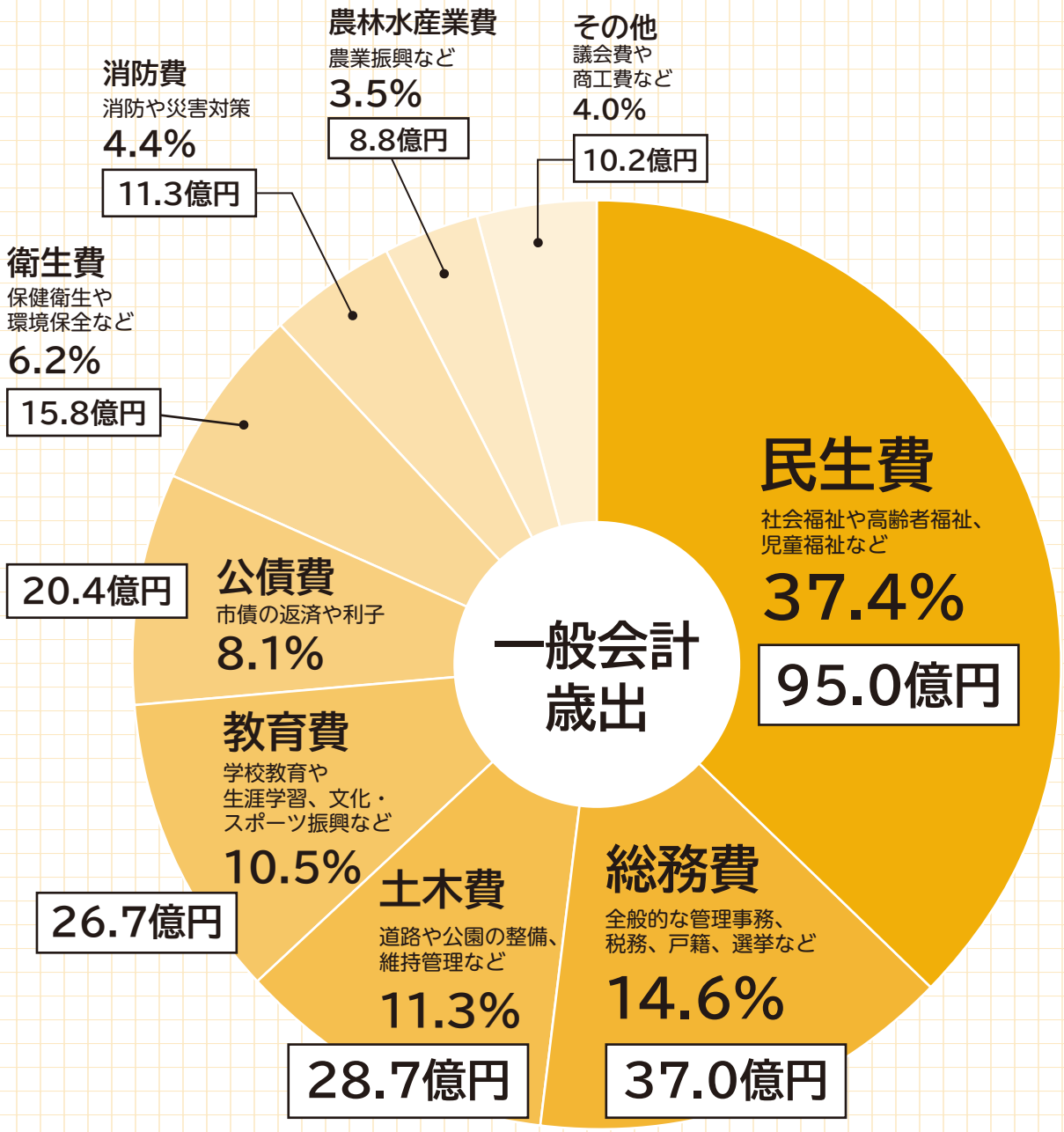
【一般会計歳入額】

263億3986万円

一般会計の歳入から歳出を引いた差引額は、9億5275万円
その額から翌年度への繰越財源を差し引いた

実質収支 6億8170万円の黒字

どうなった？令和7年度



1年間で使ったお金

【一般会計歳出額】

253億8711万円

令和８年第３回臨時会・第３回定例会

こんなことが決まりました

令和８年第３回臨時会は８月３日（月）の１日間、
第３回定例会は、９月７日（月）から29日（火）までの23日間行いました。

第３回臨時会

- 市長提出案件　２件
- 請願・陳情　０件
- 議員提出案件　０件

第３回定例会

- 市長提出案件 18件
- 請願・陳情　２件
- 議員提出案件　０件

令和８年定例会・臨時会HP

議案等の審議結果

令和８年第３回臨時会

議案等番号	議　案　等　名	結果
議案43	令和８年度那珂市一般会計補正予算（第２号）	可決
議案44	建設工事請負契約の締結について	可決

令和８年第３回定例会

議案等番号	議　案　等　名	結果
報告７	専決処分について（損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定）	－
報告８	専決処分について（損害賠償請求に関する和解及び損害賠償の額の決定）	－
報告９	令和７年度決算に基づく地方公共団体の財政の健全化に関する法律による健全化判断比率の状況について	－
報告10	令和７年度決算に基づく地方公共団体の財政の健全化に関する法律による資金不足比率の状況について	－
報告11	令和７年度那珂市一般会計継続費精算報告書について	－
議案45	那珂市印鑑条例の一部を改正する条例	可決
議案46	那珂市議会議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例	可決
議案47	那珂市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	可決
議案48	那珂市火入れに関する条例の一部を改正する条例	可決
議案49	令和８年度那珂市一般会計補正予算（第３号）	可決
議案50	建設工事請負契約の締結について	可決
議案51	令和７年度那珂市各種会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案52	令和７年度那珂市水道事業会計決算の認定について	認定
議案53	令和７年度那珂市下水道事業会計決算の認定について	認定
議案54	那珂市監査委員の選任について	同意
議案55	人権擁護委員の推薦について	同意
議案56	市道路線の認定について	可決
議案57	市道路線の廃止について	可決
請願１	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度堅持のための政府予算に係る意見書採択を求める請願 茨城県教職員組合	採択
陳情５	那珂市における市街化調整区域及び幹線道路沿線等の戦略的土地利用見直しに関する陳情	採択

※陳情第４号　雨水排水施設の改善及び浸水対策に関する陳情は継続審査となりました。



賛否が分かれた議案等



賛否が分かれた議案等 ※議長（大和田和男議員）は採決に加わりません 〇…賛成　×…反対	1 榊原 一和	2 桑澤 直亨	3 原田 悠嗣	4 大和田 和男	5 鈴木 明子	6 渡邊 勝巳	7 寺門 勲	8 小池 正夫	9 小宅 清史	10 冨山 豪	11 花島 進	12 寺門 厚	13 木野 広宣	14 萩谷 俊行	15 笹島 猛	16 君嶋 寿男	17 遠藤 実	18 福田 耕四郎	結果
議案第 49 号 令和 8 年度那珂市一般会計補正予算（第 3 号）	〇	〇	×	−	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	×	〇	可決
陳情第 5 号 「那珂市における市街化調整区域及び幹線道路沿線等の戦略的土地利用見直しに関する陳情」について、趣旨採択を求める動議	×	〇	×	−	〇	〇	×	×	〇	×	×	×	×	×	×	×	×	×	否決
陳情第 5 号 那珂市における市街化調整区域及び幹線道路沿線等の戦略的土地利用見直しに関する陳情	〇	×	〇	−	×	×	〇	〇	×	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	採択

※議案第 49 号は、複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業に反対討論がありました。
※動議…会議中に予定議案以外の議題を議員が提出すること。

議案第48号　那珂市火入れに関する条例の一部を改正する条例

林野火災注意報・警報発令時の火入れ対応を明確化します

令和７年２月に岩手県大船渡市で大規模な林野火災が発生し、国（林野庁・消防庁）がその事案を踏まえた検討会報告書を取りまとめました。これを受け、林野庁から全国の市町村に対し、林野火災注意報・警報が発令された際の対応を、各自治体の火入れ条例に明記するよう通知がありました。この国からの通知に基づき、那珂市でも 火入れに関する条例（昭和 59 年制定）に注意報・警報発令時の対応を追加するため、条例の一部改正を行うものです。

質疑応答

Q　市民の認識として、焚火と火入れがグレーゾーンになっています。明確な定義とは何ですか。

A　火入れは、森林法において、森林やその周辺の土地で、雑草や立木を面的に処理する「地ごしらえ」や「害虫駆除」のために行うものと定義されており、焚火とは区別されています。焚火は本条例の対象ではなく、焚火をする際の火災予防上必要な措置については那珂市火災予防条例に基づき適正に行うものとなります。

一般質問 Q&A

《質問者　13名》

P 7 **花島　進 議員**
- ◇国道の保守について
- ◇鈴木家住宅の整備について
- ◇生活保護費最高裁判決への対応について
- ◇ゴミ収集方法の周知について

P 7 **遠藤　実 議員**
- ◇道の駅について
- ◇瓜連支所利活用について

P 8 **鈴木　明子 議員**
- ◇学校を起点とした交流人口・関係人口の創出及び若者との継続的なつながりについて
- ◇公立学童保育の民間委託における効果検証と多様な居場所の確保について

P 8 **小宅　清史 議員**
- ◇上下水道事業の現状と将来を考える
- ◇那珂台地が抱える恐怖。線状降水帯を考える
- ◇防災体験館の誘致ができないか、考える

P 9 **冨山　豪 議員**
- ◇しどりの里の有効活用について
- ◇原子力発電施設周辺地域に対する支援措置の拡充について

P 9 **渡邊　勝巳 議員**
- ◇那珂市の観光資源について

P10 **木野　広宣 議員**
- ◇マイナ保険証による子ども医療費助成について
- ◇オンライン診療について
- ◇小中学校の熱中症対策について

P10 **原田　悠嗣 議員**
- ◇市政懇談会について
- ◇道の駅について
- ◇財源確保策について
- ◇副次都市核形成について
- ◇農業振興について

P11 **君嶋　寿男 議員**
- ◇公有地の有効活用について
- ◇那珂市のイベント事業について
- ◇小中学校のエアコン設置について
- ◇那珂市の産業（林業）
- ◇道の駅周辺の道路整備について

P11 **桑澤　直亨 議員**
- ◇市民が「便利になった」と実感できるフロントヤード改革について
  ～待たない・迷わせない・何度も書かせない市役所へ～

P12 **寺門　厚 議員**
- ◇飲食料品消費税減税の本市への影響について
- ◇避難所の実効性向上について
- ◇台風・豪雨災害対策について
- ◇生活道路の法定速度 30㎞ /h 引き下げについて

P12 **寺門　勲 議員**
- ◇部活動における生徒移動時の安全確保について
- ◇不登校の児童・生徒への給食の提供について
- ◇なか LuckyFM 公園の駐車場整備について
- ◇手話に関する施策の推進について

P13 **榊原　一和 議員**
- ◇無事之名馬（ぶじこれめいば）
  ～地域コミュニティを支えてきた市内商工業者の営みを、どう未来へつなぐのか～

一般質問の記事は、質問した議員が各自で作成しており、内容や表現については各議員の文責において掲載しています。

※各質問者のＱＲコードを読み込むと一般質問の様子を見ることができます。

花島　進　議員

国道草刈りなどの保守の改善を県に要望して

県は、問題を認識しています



Q　国道の草刈り、樹木の枝対策は、これまでも不十分と感じていましたが、今年は、特にひどいありさまでした。額田地区では、地元の有志が一部の草刈りを行っていますが、手が回らないところが多く、さらに消防団の有志が草刈りを実施してくださったと聞いています。しかし地元の有志に保守を広く依存するのは無理があります。

問題は、主に歩行や自転車通行への障がいです。管理は県の仕事と済ますことができません。今後どのような対応を考えていますか。

A　**建設部長**　茨城県常陸大宮土木事務所に、国道349号額田地区の歩道の除草について確認したところ、近年の人件費や燃料費の高騰に伴い、除草費用が年々上昇しており、県としては限られた予算の中で工夫をしながら除草を実施しているとのことです。

今後は、歩道の利用状況を踏まえ、必要に応じ防草対策や除草作業を実施すると伺っています。

Q　予算の問題であれば、道路新設の予算を減らしてでも既存の道路の有効性を確保すべきだと考えています。いかがでしょうか。

A　**建設部長**　県は、「例年の原則年1回の除草作業では不十分で、必要な予算を確保することが必要であると認識している」とのことです。

議員のひとこと
車を使えない人の通行の障がいが大きくては困ります。

遠藤　実　議員

道の駅に対する市民の意向を聴くつもりはないのか

今後も丁寧な情報発信に努める



Q　今後出来る道の駅の運営にJAは入らないのでしょうか。それでどう安定的な運営をされるのですか。

A　**産業部長**　道の駅の農産物直売所は、第三セクターが直接運営を行う直営方式を目指しています。

Q　道の駅の維持管理費は年間いくらですか。

A　**産業部長**　第三セクターの負担分が約1350万円、市の負担分が約1800万円です。

Q　道の駅の脇のバードラインの4車線化で約30億円、道の駅で約43億円、合わせて約73億円がこの地域に投資されますが、この費用対効果がどれくらいあるかを市民に説明する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

A　**建設部長**　バードラインの4車線化は、産業振興による地域活力の向上に資するものと考えています。

Q　道の駅に対して、市民の意思はどこにあるのかという意向を伺う手段は、住民投票だけではありません。例えば市民アンケート調査を行えば、住民投票よりずっと安価に、ずっとスピーディに結果を導き出せます。今後、市民の意向を聴くつもりはないですか。

A　**市長**　今後も市民からの意見を真摯に受け止めながら丁寧な情報発信に努めるとともに、議会との対話を重ねて事業を進めます。

議員のひとこと
道の駅について市民はどう思っているのでしょうか。

鈴木　明子 議員

民間委託後の学童保育をどう検証するか

市が現場の声を聴き改善へ



Q　公立学童保育の民間委託後、人材確保やICTの活用、体験活動、長期休業中の昼食提供など、新たな取り組みが進められています。一方、学童保育は単に子どもを預かる場所ではなく、子どもたちが安心して過ごす大切な生活の場です。保護者や子どもの声をどのように把握し、運営改善につなげていますか。

A　**保健福祉部長**　保護者、児童にアンケートを実施しています。今後は、市も自由記述を含む回答内容を直接確認し、意見や要望を把握したうえで、運営改善に努めていきます。

Q　運営を民間に委ねても、子どもたちの安全・安心に対する市の責任まで委ねるわけではありません。市が現場から離れることなく、子どもたちの様子を直接確認し、保護者や子どもの声、運営で見えてきた課題を次期契約の改善につなげることが重要です。今後どのように取り組みますか。

A　**保健福祉部長**　今後、各学童保育所を年1回程度訪問し、現場の状況を確認していきます。次期契約もプロポーザル方式を予定しており、運営状況や課題を踏まえ、仕様書や評価基準を見直します。また、保護者代表の選定委員への参加も含め、公平性・透明性・実効性の確保に努めます。

議員のひとこと
すべての子どもに安心できる居場所を。

小宅　清史 議員

防災体験館を機能停止後の瓜連支所に誘致を

研究し、慎重に判断していきます



Q　茨城県内には現在、地震や風水害などを疑似体験し、体系的に防災を学べる常設の県立防災学習施設、いわゆる「防災館」がありません。災害発生後の対応だけでなく、平常時から市民一人ひとりが「災害を自分ごと」として考え、行動を身につける場が必要です。そこで、機能停止後の瓜連支所を活用し、「防災体験館」を誘致してはどうかと提案します。多額の費用をかけず、県が保有するVRゴーグルや可動式パーテーションなどを活用し、地震・津波・風水害や煙避難を体験できる施設とします。さらに、道の駅や茨城県植物園「林音」との回遊を生み、地域のにぎわいと防災を結びつけます。平常時は親子や地域の交流、防災学習の場として、災害時には避難、物資の仕分け、情報発信などの拠点として活用する「フェーズフリー」の考え方です。市長の見解を伺います。

A　**市長**　市内を回遊できる「防災体験館」の誘致という大変示唆に富む視点をご提示いただきました。議員が提案された構想の実現に向けては、今後、県や近隣自治体、防災関係機関などと意見交換と防災に優れた機能や運営を行っている施設を研究し、那珂市の広域的な役割も含め慎重に判断していきます。

議員のひとこと
那珂市ならではの防災拠点を作っていきましょう。

冨山　豪 議員

電源立地地域対策交付金の対象地域の拡大を

県、国に強く要望していきます



Q　今回改正される原子力発電施設周辺地域への財政支援拡充による、那珂市への影響は。

A　企画部長　今回の原発特措法の改正では、原発から30キロ圏内の自治体まで、防災や地域基盤への財政支援の対象が拡大されました。那珂市は平成14年に旧瓜連町を含む市全域が対象地域に指定されているため、支援内容や財政支援額に変更はありません。

Q　電源立地地域対策交付金は旧那珂町のみが交付対象となっています。合併から20年以上が経過した現在も区域による差が残ることを、どのように認識しているのか伺います。

A　企画部長　原発特措法の改正と根拠法令が異なることから、電源交付金の対象地域が、瓜連地区に自動的に拡大されることはなく、区域間の差は、大きな課題と認識しています。

Q　今回の制度改正を契機に、市内全域を交付対象区域とするよう、国や県に改めて要望していただきたいが、市長の考えを伺います。

A　市長　原発特措法を活用し市民の安全・安心な生活基盤を整えると共に、電源交付金については、地域間の不公平を解消し旧瓜連町も対象となるようあらゆる機会において、関係機関を通じ引き続き強く要望していきます。

議員のひとこと
今回の制度改正を契機に、是正に向けた強い要望活動を。

渡邊　勝巳 議員

市内に滞在するような観光施策が必要では

観光を含め市内産業を活性化します



Q　額田城跡の整備・調査の状況と、国指定史跡登録を目指す考えを伺います。

A　教育部長　令和7、8年度の試掘調査で15～16世紀の遺構・遺物を確認しました。また、現在は市指定ですが、まず県指定史跡登録を目指し、段階的に国指定登録も視野に入れたいと考えています。

Q　老朽化が進む清水洞の上公園の管理施設を、観光庁の観光まちづくり推進事業などの交付金を使い、整備ができないか伺います。

A　産業部長　当該整備は現計画に含まれず事業自体も休止中ですが、老朽化は認識しています。活用できる補助金等を精査し、必要な対応を判断していきます。

Q　清水洞の上公園の清水寺や静神社の直筆箱書銅印、鈴木家住宅など光圀公ゆかりの資源、さらに額田氏・佐竹氏・楠木正家氏らの南北朝から戦国、江戸へと続く通史ストーリーを提案しました。その上で、道の駅の集客を市内に長くとどめる観光施策が必要と考えるが、市長の考えを伺います。

A　市長　「林音」や道の駅、水戸ホーリーホックのJ1昇格による集客効果を市内へ波及させ、市内産業を活性化し、雇用を生み、経済を回すことで「活力あふれる那珂市」の実現に取り組んでいきます。

議員のひとこと
道の駅を起点に観光資源を掘り起こして地域経済へ。

木野　広宣 議員

小中学校へ給水型冷水機を設置してはどうか

限られた予算では難しい状況



Q　熱中症対策の取り組みで最近、有効活用されている対応で、小中学校に給水型冷水機を導入している自治体が増えています。水道水離れと熱中症対策を目的に子どもを守る取り組みとして教育委員会と協力して、小中学校の手洗い場の給水方式を既存の受水槽式から直接式給水に改良するとともに、直接式冷水機を設置する「おいしい水飲み場事業」を進めたそうです。

　設置された冷水機は2種類、標準型と低床型になります。低学年でも飲みやすく、車椅子などにも配慮でき学校にとっては現場に適した改良された冷水機が必要とされています。

　本市でも小中学校に、給水型冷水機を設置してはどうか伺います。

A　教育部長　熱中症対策として、水分補給の重要性は十分に認識しており、持参した水筒に冷水を補給することで、下校時や部活動実施時の水分補給を促進することは同意するところであります。しかしながら、市内全ての小中学校に給水型冷水機を設置するには、一定の経費に加え、設置場所の確保の協議や衛生管理とメンテナンス、運用ルールの設定など、学校現場の協力と負担が不可欠であり、多くの課題があります。限られた教育予算の中での調整が難しい状況です。

議員のひとこと
県内で設置している自治体もある。本市でも検討を。

原田　悠嗣 議員

道の駅事業は立ち止まるべきと考えるがどうか

事業をしっかり推進していく



Q　道の駅の維持管理と、建設費の市債の償還、これを合わせると少なくとも15年は毎年1億円以上、市の予算から捻出しなければならないとなっています。そうなのであれば、道の駅を建てずにそのお金を人口減少対策、農業振興に直接アプローチできる効果的な成功事例のある政策に使うべきだと思います。

　こういった理由から、私はこの道の駅事業は立ち止まるべきだと考えますが、市長の見解を伺います。

A　市長　道の駅事業につきましては、国道118号の4車線化や県植物園等のリニューアルを好機と捉え、産業振興や地域活性化につながる拠点の創出に向け、令和2年度より計画的に事業を推進しているところです。

　今後も、事業内容や進捗状況について積極的に情報発信を行い、市民の皆様にご理解、ご協力をいただくとともに、市議会に対しましても、進捗状況の報告はもとより、予算案や工事請負契約等の議案審議を通じて、引き続き丁寧な説明と対応に努め、事業をしっかり推進していきます。

議員のひとこと
未来のために道の駅事業は立ち止まるべきである。

君嶋　寿男 議員

市営住宅の現状と今後の有効活用について

民間と連携した活用方法を考える



Q　現在、市営住宅地として何件の住宅地があるのか入居状況、建物の状況、今後の計画を伺います。

A　総務部長　市内には272戸あり入居率は79・41％です。昭和40年代に建築した建物もあり、老朽化が進んだ市営住宅の空き家については、順次取り壊しを進め、集約方法を整理していきます。

Q　空き家のまま放置することは、景観上だけではなく防犯上も決してよくないので今後の対応を伺います。また、現在、常陸大宮市、境町では、子育て支援住宅として民間と連携した住宅を建てており、最近の新聞でも来年の入居に向けた24棟を作るという境町の記事が紹介されていました。集約後の跡地利用として、那珂市もこのような活用法ができないか伺います。

A　総務部長　現在、市営住宅長寿命化計画の改定を行っており、修繕計画の見直しや、市営住宅の集約をどのように進めていくか整理をしています。また、集約を進める際は入居者に理解を得られるよう丁寧な説明を行っていきます。市営住宅の跡地に限らず活用可能な市有地についても、市の課題解決につながり、民間企業のメリットが生み出されるような民間と連携した土地活用方法について、広く探っていきます。

議員のひとこと
子育て支援住宅として民間と連携した取り組みを。

桑澤　直亨 議員

市役所の電話・窓口・オンラインをどう便利にするか

市全体で一体的に改革を進める



Q　代表電話は現在、すべての着信を交換手が受けています。定型的な取り次ぎはＡＩや自動音声応答で対応し、判断が必要な電話は人が担うなど、受付方法そのものを見直す考えはありますか。

A　総務部長　令和8年度中に利用実態データを収集し、ＡＩや自動音声応答について必要な有人体制も含め、次期契約を見据えて総コストと市民サービスの両面から比較検討します。

Q　現在の「書かない窓口」は、記入負担や待ち時間の軽減に十分つながっていません。本格的なワンストップ窓口へ進める考えはありますか。

A　総務部長　国の窓口業務改善の専門家派遣制度などの活用も含めて検討します。国の交付金等も最大限活用し、本格的な窓口のデジタル化は次年度以降の導入も視野に調整します。

Q　電話・窓口・オンラインを一体的に捉え、「待たない・迷わない・何度も書かない」と市民が実感できる改革をどう進めますか。

A　市長　電話・窓口・オンラインのどの方法でも同様のサービスを受けられ、自分に合った方法を選べる環境を整え、利用実態データを基に窓口や電話などの市民対応と庁内事務、職員の働き方も含め、市全体で一体的な改革を進めます。

議員のひとこと
市民の不便を減らし、便利を実感できる市役所へ。

寺門　厚 議員

本市でも内水氾濫対策シミュレーション実施を早急に

県計画との整合性を図り実施検討



Q　今年、全国で想定を超える豪雨が頻発し、千葉では1時間80ミリ超、北陸では1日で約330ミリを記録するなど、線状降水帯による局地的豪雨が甚大な被害をもたらしています。那珂市では大きな浸水は発生していませんが、防災マップでは五台・菅谷地区の大井川周辺で最大3メートル未満の浸水が想定されており、「那珂市は安全」とは言えません。本市の雨水排水能力が近年の豪雨に耐えられるのか、見直しが必要です。そこで、本市では、短時間豪雨対象とした浸水シミュレーションは更新されていますか。

A　**市民生活部長**　近年の局地的な短時間豪雨等に伴う内水氾濫等を対象とした浸水シミュレーションは、現時点では未作成です。

Q　今後、短時間豪雨等に伴う内水氾濫等のシミュレーションをいつ作成されますか。また、内水氾濫対策についてどのように考えていますか。

A　**市民生活部長**　短時間豪雨を想定したシミュレーションの必要性は認識しており、県の国土強靭化計画との整合性を図り、市の国土強靭化計画に基づき作成に向け検討します。内水氾濫発生の想定雨量や地域の地形など総合的な内容を検証し、内水氾濫対策の方向性を決めていきます。

議員のひとこと
内水氾濫対策を早急に構築し、「安全な那珂市」を。

寺門　勲 議員

不登校児童生徒へ、学校給食センターでの給食提供を

難しいものと判断しています



Q　不登校児童生徒への給食は、現在どのような取り扱いとなっていますか。

A　**教育部長**　不登校児童生徒が、登校した日に給食を食べることができるよう所属校において給食を提供できる体制を整えています。また、保護者の希望により給食の提供を停止する場合もあります。

Q　不登校児童生徒へ、学校給食センターでの給食の提供を実施すべきと考えますが、市の見解を伺います。

A　**教育部長**　不登校児童生徒への支援や居場所づくりの重要性については深く認識しているところです。本市の学校給食センターは市内小中学校の給食数千食を、一括して調理・配送するための専用施設です。給食提供を、安全かつ確実に行うためには、調理区域への立ち入りや異物混入・食中毒などの衛生上のリスクを、極限まで排除しなければなりません。このため、児童生徒や保護者を含め、外部者が当該センターに出入りすることは、慎重に取り扱う必要があります。また、当該センターの建物の構造上、児童生徒や保護者専用の喫食スペースを含め外部者用の動線を独立して確保することが物理的に難しい状況です。以上のことから、当該センターでの給食提供の直接的な実施は、難しいものと判断しています。

議員のひとこと
学校に行きづらい子のための、居場所づくりを。

榊原　一和　議員

市内商工業者の現状と課題 市が描く支援ビジョンとは

商工業等の産業を活性化させていく



Q　市内商工業者が、イベント等、コミュニティの形成に果たしてきた役割を市はどう評価していますか。

A　**産業部長**　中核として主体的に取り組まれ、感謝しています。地域の活力向上にも大きく貢献いただいていると認識しています。

Q　地域経済拠点整備を進めるため、商工業者へ経済効果を波及させるための連携方針を教えてください。

A　**産業部長**　県植物園のリニューアル、道の駅開業を見据え、観光客による経済効果を、飲食業や小売業などの産業の振興に結び付けていくことが、重要だと考えています。より経済波及効果が得られるよう、事業者とも連携を図っていければと考えています。

Q　市周遊ルートやイベント連携など、商工業者と協働した地域経済の活性化策についてお答えください。

A　**産業部長**　新規事業「いい那珂観光活性化事業」で、観光資源やニーズ調査を行い、新たな観光コンテンツの造成に向け、事業者とのヒアリング等で、具体的な取り組みを進めます。

Q　商工業者支援「市長ビジョン」の有無と具現化をお答えください。

A　**市長**　市民とともに、観光のみならず、商工業、農業等の産業を活性化させ、活力あふれる那珂市の実現に取り組んでいきます。

議員のひとこと
商工業者が力強く走り続けられる那珂市でありたい。

令和８年12月定例会から議場システムが新しくなります！

～もっと見やすく、もっとわかりやすく。便利な字幕機能もスタート～

那珂市議会では、これまでYouTubeで配信していた本会議、臨時会のライブ中継および録画配信を12月定例会から専用の新しい映像配信システムへ移行します。

今回のリニューアルにより、発言内容がリアルタイムで画面に字幕として表示されます。音声を聞き取りにくい環境でも、パソコンやスマートフォンから安心して会議の内容を確認できます。さらに、議場に新しくモニターを設置し、実際に傍聴に来られたかたも映像を確認することができるようになります。

新しい視聴用URLやアクセス方法は、準備が整い次第、市議会ホームページや市議会公式SNSなどでお知らせします。どうぞお楽しみに！



市議会ホームページ



その他の

議会活動レポート



総務生活常任委員会



7/23 意見交換の様子

7月23日、「持続可能なまちづくり～課題やこれからの活動について～」をテーマに、まちづくり委員長・事務局長の皆さんと議員と語ろう会を開催しました。

当日は各地区から、子どもたちとの交流、地域行事の工夫、自治会との連携、担い手不足、若い世代や女性の参画、地域の子どもたちの居場所づくりなどへのご意見、また、道路の除草や環境維持、空き家問題といった日常生活に身近な課題についても多くの声が寄せられました。それぞれの地域では、世代を超えた交流が続けられており、地域の力を改めて実感しました。

一方で、事務局長をはじめとする担い手の確保、自治会との関係づくり、活動を支える財源のあり方など、地区を超えて共通する課題も明らかになりました。

人口減少が進む中、これから10年、20年先を見据え、防災、防犯、高齢者支援、空き家問題など地域の皆さまが安心して暮らし、支え合いながら活動を続けられるまちづくりを、どのように進めていくべきか、いただいたご意見を大切にしながら、引き続き真摯に考え、取り組んでいきます。

教育厚生常任委員会



7/29 視察の様子

「学校規模適正化と教育環境の確保について」の調査事項の一環として、鹿嶋市を視察しました。

鹿嶋市では、少子化に伴い児童数の減少が進み、複式学級が発生する中、これまで小規模特認校制度やＩＣＴの活用などにより、小規模校の良さを生かした教育を続けてきました。

一方で、児童数のさらなる減少や保護者からの不安の声などを受け、令和6年度に学校規模適正化へ方針を転換しています。適正化を進める際には、単に児童数や学級数だけで判断するのではなく、主体的・対話的で深い学びを効果的に行うために必要な学校規模を教育的な観点から整理し、検討開始の基準を明確にしています。

また、基準に該当した学校については、保護者や地域住民、学校関係者による検討委員会を設け、地域の理解と合意形成を図りながら進めています。

今回の視察を通じ、教育環境を第一に考えること、検討基準を明確にすること、そして統合に向け十分な準備期間を確保することの重要性を学びました。委員会として引き続き調査・研究を進めていきます。

産業建設常任委員会


8/17 意見交換の様子

産業建設常任委員会では、那珂インター周辺開発の一環である「道の駅」計画について、ＪＡ常陸ひたちなか営農経済センターの職員の皆さんと議員と語ろう会を行いました。直売所の経営状況、近隣の道の駅の事例、出荷体制、新規就農者の現状など、地域農業の今とこれからに関する幅広いご意見を伺いました。

地域農業の持続、販路拡大やブランド力向上への道の駅の役割、新規就農者が参画しやすい仕組み、直売所との連携など、道の駅を「地域の力を伸ばす拠点」としていくための重要な視点を共有いただき、委員会としての学びを深めました。

さらに今回の意見交換では、道の駅が地域の農産物を安定的に供給する仕組みづくりや、観光と農業を結びつける交流拠点として機能する可能性についても議論が深まりました。農業者が抱える課題をどのように行政が支え、地域の産業振興につなげていくかという点で、現場の声は大変示唆に富むものでした。いただいたご意見を参考に、今後の委員会活動を進めていきます。

原子力安全対策常任委員会


7/7 視察の様子

７月７日に、大洗原子力工学研究所と東海第二発電所の視察を行いました。

大洗原子力工学研究所では、高温工学試験研究炉（ＨＴＴＲ）の視察と、実証試験等の説明を受けました。この研究炉は、高温熱源が950℃の世界最高温度記録を持つ施設で、水素製造施設との接続を行い、水素製造の実証試験を進めているとのことです。施設の安全性の高さが確認できたとともに、今後の検証の成果が期待されます。

また、東海第二発電所では、工事の状況を確認するとともに、使用済燃料乾式貯蔵建屋（ドライキャスク）の視察と説明を受けました。

８月27日には、福島第一原子力発電所の視察を行い、廃炉に向けた現在の作業状況を確認しました。また、視察に来ていた他県の高校生から原発の事故や復興について意見を聴くことができました。彼らが生まれて間もない頃に発生した福島原発の事故ですが、貴重な意見や考えを聴くことができ、とても有意義な視察となりました。

今後も多くの状況視察や意見を伺う機会を設け、調査・研究を進めていきます。

2026. 11. 4　Vol. 91

議会を傍聴しませんか

自由に見たり、聴いたりできるんです

●本会議の受付所　　市役所３階傍聴席前
●各委員会の受付所　市役所２階全員協議会室前

令和８年12月定例会日程（案）

日	月	火	水	木	金	土
11/29	30	12/1	2	3 本会議 （開会）	4	5
6	7 本会議 （一般質問）	8 本会議 （一般質問など）	9 本会議 （一般質問予備日）	10	11	12
13	14 総務生活 常任委員会	15 産業建設 常任委員会	16 教育厚生 常任委員会	17 原子力安全対策 常任委員会	18	19
20	21	22 議会運営委員会 全員協議会	23 本会議 （閉会）	24	25	26

※会議は、原則として午前10時開会です。

令和８年12月定例会から議会中継が新しくなります

●議会では、これまで YouTube で配信していた本会議、臨時会のライブ中継および録画配信を 12 月定例会より専用の新しい映像配信システムへ移行します。今回のリニューアルによりパソコンやスマートフォンからさらに快適にご覧いただけるようになります。準備が整い次第、議会ホームページに掲載していきます。

令和８年９月定例会までの議会中継

市議会公式ホームページ
令和８年 12 月定例会からの議会中継

請願・陳情の提出

●12月定例会での審議を希望される場合には、11 月 20 日（金）午後５時までに議会事務局へ提出してください。

那珂市議会公式SNS

編集後記

朝晩の風に秋の訪れを感じる季節となりました。

今号では、審議した議案や一般質問のほか、令和７年度決算の内容もお届けしています。皆様に議会の活動をより身近に感じていただき、今後のまちづくりへの関心を深めていただければ嬉しく思います。議会だよりが、市民の皆様と議会をつなぐ架け橋となれば幸いです。

寒さに向かう折、お体にお気をつけてお過ごしください。

小池　正夫

議会広報委員会
委員長　桑澤　直亨
副委員長　鈴木　明子
委員　榊原　一和
委員　渡邊　勝巳
委員　小池　正夫
委員　遠藤　実

発行／那珂市議会　編集／議会広報委員会　〒311-0192 茨城県那珂市福田1819-5
TEL 029(298)1111(代表)　FAX 029(298)6287　MAIL gikai@city.naka.lg.jp　URL https://www.city.naka.lg.jp/